

会 議 録

会議名	平成 27 年度第 2 回東浦町社会教育委員会	
開催日時	平成 27 年 11 月 27 日（金） 午前 10 時から正午まで	
開催場所	東浦町文化センター 2 階視聴覚室	
出席者	委員	石原弘幸氏、田頭美紗子氏、松下玲子氏、 天野圭二氏、中村建志郎氏、中村浩二氏、 久米 弘氏、平井伸幸氏、神谷真由美氏、 田島由美子氏、杉浦義治氏
	事務局	教育長、教育部長、生涯学習課長、図書館長、 スポーツ課長、生涯学習課長補佐、文化財係長、 生涯学習指導員
欠席者	鈴木万里子氏	
議題	1 青少年の健全育成に係る生涯学習課の取組について 2 男女共同参画委員の選出について 3 その他	
傍聴者の数	1 名	
審議内容	◆生涯学習課長 次第に従い、会議を進める。 最初に委員長、教育長からあいさつ。 ◇委員長 (あいさつ) ◆教育長 (あいさつ) ◇委員長 次第に従い、議事を進める。議題 1「青少年の健全育成に係る生涯学習課の取組について」を議題とし、はじめに、成人式委託事業について事務局から説明を求める。 ◆事務局 配付資料に基づき説明。 ◇委員長 事務局の説明を受けて、委員の意見を募る。 ◇委員 大事なものは、成人式に参加する子たちがやってもらうのではな	

	くて、自分たちでそれを創り上げるんだという気持ちをもたせること。そして、そこで培った一つの行事を成し遂げた力をどのように次に生かしていくかということである。若者を対象にしたいろいろな事業を通して東浦町の青少年教育は何を目指していくのかということをもう一度考えていかななくてはならない。また、いかに若者たちの意見を吸い上げていくかということも大切である。 ◇委員 成人式と同じ日に町の出初め式がある。そのため、第2部の新成人がいろいろな思いを述べるときに、議員さんや校長先生たちがぬけてしまい残念である。 ◇委員 事業効果が高い低いとは、どういうことなのか。何をもって高い低いと判断しているのか。 ◆事務局 事業評価の高い低いと判断した理由について、項目ごとに詳しく説明。 ◇委員 主催者の感覚で高い低いとするのではなく、アンケートなどの客観的な評価資料を用いて、効果測定を厳密にやった方がよいのではないか。 ◇委員 参加率が80%を超えているのは、他市町と比べても、すごく高いと言えるのではないか。それも事業効果が高いという一つの判定材料になるのではないか。 ◇委員 反省会での話し合いを生かすこともよい。 ◆事務局 成人式実行委員会については、今年成人になった子と次の年に成人になる子たちで反省会をもっている。うまくいかなかったことは反省会の場で話題に上がり、翌年の改善に生かすことができる。評価資料にも生かすことができる。 ◇委員長 続いて、ミュージックフェスティバル事業について事務局から説明を求める。
--	---

	◆事務局 配付資料に基づき説明。 ◇委員長 事務局の説明を受けて、委員の意見を募る。 ◇委員 青少年育成ということにつながっていないのではないか。また、1チーム25分間というのは長いのではないか。リピーターが増えてきて新しい人の発掘に結び付かないというのであれば、中学生も参加できるように見直すことが必要ではないか。また、年齢制限を設けて裾野を広げるようにもっていく必要があるのではないか。 ◆事務局 今年の出演者は、一番若い人で20歳。後は、30代、40代、50代。さらに上の方もみえた。公募してもなかなか集まらない状況である。グループ数が増えれば、当然、1グループの演奏時間は短くなる。25分間とか30分間にこだわっているわけではない。 実行委員の中には、若い人もいる。その中でリーダーシップを発揮して企画や運営をするという点については、青少年育成という目的は果たしていると考えます。 今年は練習風景を見てもらったり体験コーナーを設けたりして趣向を凝らしてみたが、中学生や高校生の来館者はほとんどみられなかった。実行委員さんは、方法を工夫し、さらにPRをしたいと考えている。 ◇委員 以前は、ヤングフェスティバルという名前でやっていた。 ◆事務局 はじめはヤングだったが、そのまま年齢が上がってきたというのが現実である。新しい人がここに加わっていただけると、もっと盛大になる。 ◇委員 裾野を広げるのに、具体的な数値目標を設定することも一つの方法ではないか。 ◇委員 町内の中に、参加対象の団体がある程度あるのであれば、より広げることができる。しかし、今出ているのが最大数だというこ
--	---

	とであれば、ジャンルを増やすことを考慮することが必要かもしれない。楽器店などを通してどの程度のグループがあるのかをつかみ、直接案内を送るなどして増やす工夫をしていかないと難しい。 ◇委員 ミュージックフェスティバルとなっているのに、ダンスやゲームが入ってきているということは、数がないのでこういった方たちにも出てもらっているということではないか。 ◇委員 文化センターに教室を作って新しい人たちを入れていくと、もっと広がっていくように思う。 ◇委員 内容を検討し、特定の人たちの場だけではなく、他の人たちも入れるような形にしていかないと、しだいにじり貧になってしまう。方策についてお願いしたい。 ◆事務局 参加者については広げていきたいと思っている。実行委員のみなさんと相談して進めていきたい。 ◇委員長 続いて、親子ふれあい映画事業について事務局から説明を求める。 ◆事務局 配付資料に基づき説明。 ◇委員長 事務局の説明を受けて、委員の意見を募る。 ◇委員 わざわざ文化センターに来て、映画を見るということに価値があるのだろうか。映画を見た後に話し合いがあったり、ほかのイベントと一緒になっていたりすると、価値が高まるように思われる。 ◆事務局 文化センターへ来るまでの道中や、映画を見た後での振り返りの話し合いがされているのではないだろうか。
--	--

	◇委員 夏休みであれば、もう少し早い時間から実施できるのではない か。 ◇委員 時代背景も変わってきている。屋外で遅い時間に実施するとい うのが参加者が減ってきている理由ではないか。 ◆事務局 屋外でやることを考えての時間設定である。暗くなってからで ないと始められないというのが、屋外でやる場合の欠点である。 ご意見は参考にさせていただきたい。 ◇委員 虫がくるのもつらい。今回のような内容の映画しかだめなのか。 もっと興味がわく面白い映画がたくさんあるように思う。 ◆事務局 確かに、面白いものがたくさんある。しかし、著作権などの制 約が多々あり、選ぶのは難しい。みなさんの要望に応えたいと思 い、映画会社と相談しながら進めている。 ◇委員 映画にとらわれずに、やってはどうか。スクリーンやピアノの 生演奏を用いた朗読会や、DVD の鑑賞会と連携して実施するとい うのもよいのではないか。 ◆事務局 DVD についても、皆さんにみせる場合には一般の DVD とは取り扱 いが違う。金額にかなり差がある上に、規制もある。ジブリなど の上映権のついたものは売ってもらえないということも発生する だろう。 ◇委員 映画以外のもの、少人数でもよいから実施できるというものを 考えていった方がよい。生のものに接する機会があれば、感動は もっと伝わっていく。 ◇委員 ある調査によると、最近は、少子化によって周囲に友達が少な くなり、親子でのふれあいが増えてきているようだ。もう少し内 容の検討ができたらと思う。
--	---

	◆事務局 映画以外の方法で何かできないかということも考えている。何かよいものがあれば教えていただけるとありがたい。 ◇委員長 続いて、ジュニアリーダー育成事業について事務局から説明を求める。 ◆事務局 配付資料に基づき説明。 ◇委員長 事務局の説明を受けて、委員の意見を募る。 ◇委員 小学校4年生から中学校3年生までがジュニアリーダー、その上にシニアリーダーというのがあるのか。 ◆事務局 今はない。組織的にもない。行事などの際に、ジュニアリーダーで活躍していた子たちに手伝ってもらうことはある。 ◇委員 会員45名の学年別はどうなっているのか。あわせて、地区の状況が分かるとありがたい。 ◆事務局 昨年は小学校4年生が14名、5年生が10名、6年生が16名、中学生が5名だった。地区はほとんどが森岡と緒川、石浜である。新田は1名だけだった。地域差はみられる。 ◇委員 家族で参加させようという意欲があって、積極的にサポートしてもらえる子は参加が可能である。しかし、本人は来たくてもサポートしてもらえないという家庭の事情があると、参加できない。活動場所への交通手段などがネックになっているのだろう。 ◇委員 二人の指導者で見ることをかんがえると、45名が適当ということか。 ◆事務局 45名の子どもたちに対応するのに二人の指導者では十分ではな
--	---

	かった。職員の補助が必要だった。そこで、今年は、35 名に絞っている。 ◇委員 4 年生で入って、その後は毎年更新をしないといけないのか。 ◆事務局 毎年更新制である。より多くの子どもたちに機会を与えたい。1 年ごとにいろいろなことを体験してもらおう。翌年は翌年でまた違うことを企画してやっている。同じ子が来ても拒まないし、新しい子が来ても問題はない。 ◇委員 活動は子どもたちが自主的自発的にやっている内容なのか、大人たちによるお膳立てがある内容なのか。また、ジュニアリーダーの子どもたちに地域で活躍してほしいと思うので、地域へもつながりを付けておくことが必要である。 ◆事務局 大人がお膳立てをしている部分はある。しかし、子どもたちができることはやらせている。一から十まで指図しているわけではない。産業まつりでは、自分たちで工夫して率先して活動している姿が見られた。 ◇委員 リーダーとしての意識をもちながら、経験したことを下の子たちに教えたり、自分たちでいろいろなことの計画を立てて実行したりするという発展性をもった組織に、また、中学生まで頑張った子を中心にして自主的な活動ができるような組織になるように進めていかないと、うまく育っていかない。 ◆事務局 単年度で終わってしまうというのでは、リーダーの育成はできない。継続してやっていかないとリーダーを育てることはできない。 ◇委員 地区が偏っているのはやはり問題だと思う。各地区である程度の人数がいるとよい。 ◇委員 ジュニアリーダーというのは、もともといろいろな場に出かけていってお手伝いをするというような存在ではない。彼ら自身で
--	--

	ゲームを進めることができるような力をもった子たちである。だから、その力を発揮できるようにすることが必要である。 ◇委員長 議題１へのさらなる意見がないことを確認し、議題１の審議終了を宣告。 議題２の男女共同参画委員の選出に移る。男女共同参画委員について、事務局から説明を求める。 ◆事務局 男女共同参画委員について説明。 ◇委員長 事務局の説明を受けて、委員の選出をする。 委員の互選で、松下委員を選出。 議題３「その他」について案件がないことを確認し、議事の終了を宣告。 ◆事務局 次回の委員会について連絡。次回は、３月に予定。日時は後日連絡。
備考	なし